

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	キャリアガイダンス (688)				教 科 区 分 必修 / 選択	一般教育科目 必 修
担 当 教 員	大内 香那子				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次 -	2年次 2	3年次 -	4年次 -		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
<p>仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
授 業 形 態	演 習	教 室	ライブ配信	補 助 教 員	各担任	
<p>就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
教 科 書 材 教 材	仕事力を身に付ける 20 のステップ					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間／回
【前期】
 1回～3回 人生の3つの要素（人間関係・財産・仕事）
 4～6回 社会人としての基礎マナー
 7～9回 ロジカルライティング基礎
 10～12回 プレゼンテーション基礎
 13回～15回 他者から見た自分を知る
 16回 サンクスドリル基礎学力テスト

【後期】
 1～3回 過去の行動から見た自分を知る
 4～6回 社会が求める人材像
 7～9回 社会人インタビュー、社会人トークセッション
 10～12回 キャリアデザインマップをつくる
 13回～15回 まとめプレゼン
 16回 サンクスドリル基礎学力テスト

評価コード	11	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。 	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	プログラミング技法II (725)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	森 久				実 務 経 驚 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次 -	2年次 6	3年次 -	4年次 -		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
<p>将来のITエンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、1年時に統一Java（プログラミング言語）を学習する。今使われている多くの言語が、オブジェクト指向プログラミングを実現しており、Javaを学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身につけ、卒業後社会で通用するプログラマを目指す。</p>						
授 業 形 態	講 義	教 室	163教室	補 助 教 員	なし	
<p>授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。</p>						
教 科 書 材 教 材	スッキリわかるJava入門 第3版 オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE スピードマスター問題集 試験番号1Z0-818対応 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間／回
【前期】
1～2回 オブジェクト指向の導入 3～4回 インスタンスとクラス、演習 5～8回 さまざまなクラス機構、演習 9～12回 繙承、演習 13～17回 高度な継承、演習 18～21回 多態性、演習 22～25回 カプセル化、演習 26～35回 プログラム作成演習、演習
【後期】
36～41回 Javaを支えるクラス群の理解、演習 42～47回 文字列と日付の扱い、演習 48～53回 コレクション、演習 54～59回 例外、演習 60～65回 ファイル読み書き、DB操作、演習 66～71回 プログラム作成演習、演習

評価コード	3	
評価方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。 	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	システムデザインⅡ（844）				教 科 区 分 必修 / 選択	専門教育科目 必 修
担 当 教 員	荒木 俊行				実 務 経 驚 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
1年次に学んだ基礎知識を基に、模擬的に用意した顧客から依頼の案件を元に、実際にシステムの設計および各種工程で作成するドキュメント作成を行う。要求定義、業務改善・システム化を擬似的に実施する。						
授 業 形 態	実 習	教 室	163教室	補 助 教 員	なし	
資料を基に主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。						
教 科 書 教 材	資料を適宜使用 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2単位時間／回	
【前期】	
1～2回	要求定義書作成方法について
3～4回	要求定義書作成演習
5～6回	機能一覧表作成方法について
7～8回	機能一覧表作成演習
9～10回	入出力一覧表について
11～12回	入出力一覧表作成演習
13～14回	データ定義書作成方法について
15～16回	演習
【後期】	
17～18回	データ定義書作成演習
19～20回	プログラム構成図作成方法について
21～22回	プログラム構成図作成演習
23～24回	画面定義書作成方法について
25～26回	画面定義書作成演習
27～32回	総合演習

評価コード	13	
評価方 法		<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	データベース II (729)				教 科 区 分	専門教育科目		
			必修 / 選択	必 修				
担当教員	渡邊 学				実 務 経 驚 内 容			
週 授 業 時 間 数	1年次 -	2年次 2	3年次 -	4年次 -				
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標								
世界的にシェアの高いORACLEデータベースの活用を学び、システムエンジニアとしてのスキルを向上させる。スキル向上とともに、認定資格であるORACLE MASTER Bronze DBAの取得を目指す。								
授 業 形 態	講 義	教 室	163教室	補 助 教 員	なし			
教 科 書 教 材	オラクル認定資格試験対策書 BronzeDBA Oracle Database Fundamentals 完全詳解+精選問題集 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）							

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間／回
<p>【前期】</p> <p>1～2回 Oracleデータベース管理の概要 3～4回 Oracleソフトウェアのインストールとデータベースの作成 5～6回 Oracle Enterprise Manager Database ExpressおよびSQL管理ツールの使用 7～10回 Oracle Network環境の構築 11～14回 Oracleインスタンスの管理 15～18回 データベース記憶域構造の管理 19～22回 ユーザーおよびセキュリティの管理 23～26回 スキーマオブジェクトの管理 27～28回 データベースの監視およびアドバイザの使用 29～30回 バックアップ・リカバリの概要と可用性を高める構成 31～32回 模擬問題</p>

評価コード	3	
評価方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。 	

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	テクニカルスキル I (891)				教 科 区 分	専門教育科目		
	必修 / 選択				必 修			
担 当 教 員	後藤 臨太郎				実 務 経 驚 内 容			
週 授 業 時 間 数	1年次 -	2年次 4	3年次 -	4年次 -	[後藤] ネットワークエンジニアとしてネットワークシステムの構築、運用、保守に携わった。			
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標								
<p>ネットワークはITインフラの基盤でありIT技術者には必須の技術である。より実践的なスキルを身に付けるため、Ciscoより提供されたシミュレータソフトで、デバイス（ルータ、スイッチ）設定の実習、実技試験を必要に応じて実施する。</p> <p>授業はCCNA(Cisco技術者認定試験)合格カリキュラムに準じた内容で、2年間をかけて順序良く授業を進める。進行状況に合わせてルータ、スイッチの設定等の実技も習得し、CCNA合格を目指す。</p>								
授 業 形 態	講 義	教 室	163教室	補 助 教 員	なし			
<p>授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにシミュレータを使った実習も行う。実習で使う題材は、学生インターネットにあるものを利用する。実習は授業時間内に実施するスキル試験により評価を行う。評価は完成度とする。</p>								
教 科 書 材	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(毎授業で使用) 貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用)							

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間 : 2 単位時間／回
【前期】
1～2回 環境設定/授業説明
3～4回 ネットワークの基礎(1年次の復習)
5～10回 Ciscoルータの初期設定
11～32回 ルータの機能とルーティング
【後期】
33～42回 OSPF
43～52回 ACL
53～62回 NAT・DHCP・DNS
63～64回 総合演習

評価コード	3	
評価方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S (90~100点)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、F (60点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の (1) または (2) とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述 (1) 以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。 	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	ゼミナールⅡ (937)				教 科 区 分	専門教育科目		
	必修 / 選択				必 修			
担 当 教 員	後藤 臨太郎				実 務 経 驚 内 容			
週 授 業 時 間 数	1年次 -	2年次 4	3年次 -	4年次 -				
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標								
将来Webアプリケーションエンジニアとして活躍できるスキルを身に付ける。PHPはWebアプリケーションに特化したプログラミング言語である。また、データベースとの連携も可能で、動的なホームページ作成も可能である。同時にセキュリティについても考察し、安全なwebサイト構築が可能な技術を習得する。								
授 業 形 態	実 習	教 室	164教室	補 助 教 員	なし			
テキストおよびノートパソコンを使用し、Webアプリケーションの制作が可能なプログラミング言語であるPHPを用い、プログラム作成を中心に授業を実施する。								
教 科 書 材	スラスラわかる PHP 第2版 貸与ノート型パソコン(授業内で適宜使用)							

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2単位時間／回
【前期】
1回 PHPとは（環境設定）
2回 基本文法
3～6回 配列
7～8回 関数
9～12回 ファイル操作
13～16回 フォームとの連携
【後期】
17～26回 データベースとの連携
27～32回 セッション管理(クッキー)
33～38回 セキュリティ
39～64回 作品制作

評価コード	13	
評価方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。 	

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	システム運用管理 (735)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	横井 健一				実 務 経 驚 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次	-	-
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
<p>将来のITエンジニアとして、Linuxオペレーションの知識は必須である。本授業では、Linuxの基本知識、コマンドラインオペレーション、特權アカウントでの簡単な管理オペレーションの学習を行う。そしてWebサーバやDNSサーバなどの構築を通じて、Linuxに関する知識を深めていく。また、これらの知識の証明として、各種資格試験 (LinuC101、LPIC101、Linux Essentials) への合格も目指す。</p>						
授 業 形 態	講 義	教 室	163教室	補 助 教 員	なし	
教 科 書 教 材	1週間でLPICの基礎が学べる本 第3版、中島能和、インプレス 貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用)					

授 業 計 画 ・ 内 容	
<p>●授業時間 : 2 単位時間／回</p> <p>【前期】</p> <p>1～3回 授業ガイドンス、Linux学習環境の構築、Linuxとオープンソース 4～6回 Linuxの基本操作、ファイルの表示とディレクトリ移動 7～9回 ファイルとディレクトリの基本操作、圧縮と展開 10～12回 ユーザーとグループの管理 13～15回 所有者と所有グループ、パーミッションの設定 16～18回 viエディタによる基本的な編集操作、保存と終了、便利な機能 19～21回 シェルの役割と基本操作、便利な機能、シェル変数と環境変数 22～24回 シェルスクリプトの基本、引数と終了ステータス 25～27回 ファイルの検索、テキストファイル内の検索と便利なコマンド 28～30回 パッケージ管理 31～32回 まとめ、定期試験について</p> <p>【後期】</p> <p>33～35回 授業ガイドンス、ハードウェアとLinux、ファイルシステム 36～38回 マウントとアンマウント、ディレクトリの配置と役割 39～41回 プロセスの管理、ジョブの管理 42～44回 ネットワークの設定と管理、ネットワークを利用するコマンド 45～47回 ログとログファイル、システム状態の確認コマンド 48～50回 サーバー構築演習1 51～53回 サーバー構築演習2 54～56回 サーバー構築演習3 57～59回 Linux Essentials対策 60～62回 LinuC 101対策 63～64回 まとめ、定期試験について</p>	

評価コード	3	
評 価 方 法		<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅延等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	情報セキュリティ I (738)				教 科 区 分	専門教育科目		
					必修 / 選択	必 修		
担当教員	荒井 豊文				実 務 経 驚 内 容			
週 授 業 時 間 数	1年次 -	2年次 2	3年次 -	4年次 -				
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標								
<p>情報セキュリティについての定義を明確にし、リスクコントロールの手法として様々なセキュリティ対策があることを理解したうえで技術対策の基盤となる暗号技術、認証技術、PKI、セキュリティプロトコルについて学ぶ。これらの技術がどのような脅威に対して有効か判断できるようになることを目標とする。</p>								
授 業 形 態	講 義	教 室	163教室	補 助 教 員	なし			
<p>授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。実習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、学生インターネットにあるものを利用する。実習内容（結果）はすべて提出する。提出方法については、その都度説明する。</p>								
教 科 書 材 教 材	セキュリティ技術の教科書							

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2単位時間／回
【前期】
1～5回 情報セキュリティとサイバーセキュリティ 情報セキュリティの概要や、脅威・リスク等について学習
6～9回 問題演習
10～14回 情報セキュリティに対する脅威 脅威や攻撃者の概要について学習
15～16回 問題演習
【後期】
17～22回 暗号記述・認証技術・PKI セキュリティ技術のPKIを取り上げ、その技術の根拠・実例について学習
23～24回 問題演習
25～30回 通信の制御とサイバー攻撃対策技術 IDS, IPS, FW等の役割やその限界などについて学習
31～32回 問題演習

評価コード	3	
評価方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。 	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	プレゼンテーション技法 (198)				教 科 区 分 必修 / 選択	専門教育科目 必 修
担 当 教 員	新美 あゆみ				実 務 経 驚 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
<p>近年、プレゼンテーション能力が重視されている。プレゼンテーションは、与えられた条件のもとでいかに聞き手にわかりやすく情報伝達でき、受け入れてもらうかがポイントである。授業では、具体的にテーマを与え、実際にプレゼンテーションを経験する。受け入れてもらうためのストーリーづくりから視覚資料の作成、リハーサルの実施を行うことにより、本番までの流れを理解する。また、他の人のプレゼンテーションを観察することにより、自分のプレゼンテーションの改善ポイントを把握し、反省することによりプレゼンテーション能力の向上を目指す。これらを通して、「伝える力」を身に付ける。</p>						
授 業 形 態	実 習	教 室	163教室	補 助 教 員	なし	
<p>身近なものをテーマとして、プレゼン資料の制作、発表、評価、改善を行う。資料については、ノートパソコンを使用し PowerPointで作成する。</p>						
教 科 書 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間／回
【前期】
1～4回 イントロダクション（情報収集力・発信力・傾聴力について）
5～12回 PowerPointをマスター
13～16回 課題演習
【後期】
17～22回 PowerPointを使用して、プレゼンテーション資料の作成
23～26回 プrezentテーションの実施
27～32回 プrezentテーションの評価と改善

評価コード	13	
評価方 法		<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	資格対策 (700)				教 科 区 分 必修 / 選択	専門教育科目 必 修
担 当 教 員	後藤 臨太郎				実 務 経 驚 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
<p>将来のITエンジニアとして、ITの知識・技術の習得は必須である。本授業では、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。</p> <p>国家資格だけでなく、IT企業から一定の評価があるベンダー試験についても受験対策を行う。</p>						
授 業 形 態	演 習	教 室	163教室	補 助 教 員	渡邊 学・田中 実・森 久・高山 健	
<p>授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。</p> <p>個々の学生が目標とする資格毎にコースを作り、コースごとに授業を実施する。</p>						
教 科 書 材	貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用)					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間： 2 単位時間／回
【前期】
●FE・科目A対策
1回～36回 基本情報技術者試験 科目A免除試験 問題演習
●FE・科目B対策
1回～36回 アルゴリズム、セキュリティに関する講義、問題演習
●AP・午前対策
1回～36回 応用情報技術者試験 午前問題に関する講義、問題演習
●AP・午後対策
1回～36回 データベース、セキュリティ、組み込みに関する講義、問題演習
●AP(ネットワーク)対策
1回～36回 応用情報技術者試験のネットワーク分野に関する講義、問題演習
●OracleMaster SilverSQL対策
1回～36回 資格試験対策テキストをベースに出題範囲の分野の解説、問題演習
●Oracle Master BronzeDBA対策
1回～36回 仮想環境を用いた講義、問題演習
●CCNA対策
1回～36回 ネットワークに関する講義、問題演習、シミュレータを使った演習
【後期】
●FE対策
1回～36回 アルゴリズム、セキュリティに関する講義、過去問題演習
●Linux Essentials対策
1回～36回 試験学習サイトの問題を活用した講義、問題演習
●Oracle Master BronzeDBA対策
1回～36回 仮想環境を用いた講義、問題演習

評価コード	11	
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。